

【超音波センター（消化器・腹部）】

【研修の特徴】

消化器（腹部）超音波検査は、肝胆膵領域の臓器に留まらず消化管や腎臓・婦人科領域など急性腹症をはじめとする初期診療に重要な画像検査である。近年 CT などを中心に画像検査の進歩は著しい。しかし地域医療や急性期疾患の一次医療を考えると超音波検査による初期診断の重要性は揺るぎない。被爆もなく簡便に診断から治療までの過程を医師自身でできることは重要である。

研修の早い段階から超音波診断に触れ、超音波検査の実際を体験し超音波に関する知識を身につける。まずは正常の解剖学的知識に加え消化器・腹部領域を中心とした幅広い疾患の病理病態との関連を学ぶ。1ヶ月後の到達目標は、消化器疾患に対するスクリーニング技術の習得とする。

【内容】

① 一般目標（GIO）

消化器・肝胆膵・骨盤領域の臓器特性を理解し超音波を通じて解剖病態を理解する。

② 行動目標（SBO）

1. 患者を全人的に理解し患者やその家族と良好なコミュニケーションがとれる。患者のプライバシーや医療安全に配慮ができる。
2. 指導医や同僚医師、他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれ、チーム医療の重要性を理解できる。
3. 超音波検査の準備等を習得する。
4. 超音波検査の必要性、方法、危険性を理解し、説明できる。
5. 腹部超音波検査に指導医と参加し、検査の実際を経験し習得する。
6. 腹部超音波検査の所見を理解し、診断し治療方針を立てることができる。

③ 研修内容（方略）（LS）

1. 指導医、上級医のもとに超音波検査を行う。
2. 超音波センターカンファレンスに参加し、画像の見直し、検討を行う。
3. 外科合同カンファレンスに参加し、診断、治療方針を立てることができる。

④ 教育に関する行事

1. 超音波カンファレンス（毎週火曜日 17:30～18:30）超音波センター
毎週火曜日に一週間の症例を振り返り、血液生化学検査、造影 CT、MRI、手術所見などとの対比をしながら全員で検討する。カンファレンスの最後には持ち回りで、消化器肝胆膵疾患領域に関してのトピックスや最新情報などについての抄読会も行う。
2. 肝胆膵内科・放射線科・外科合同カンファレンス（週 1 回）外科カンファレンス室
3. 病理合同カンファレンス（月 1 回、隔週水曜日、病理カンファレンス室）を行い、超音波診断と組織の関連等について学ぶ。

⑤ 研修評価（EV）

I 自己評価

研修医が研修目標の到達度を自己評価し、EPOC 入力する。

II 指導医による評価

指導医が研修医の EPOC 入力の状況をチェックし、到達度の評価を EPOC へ入力する。

III 臨床検査技師による評価

臨床検査技師が研修医を評価し、EPOC 入力する。

IV研修内容の評価

研修医が研修内容の評価し、EPOC 入力する。

【指導医】

教授：飯島 尋子

講師：西村 貴士

【問い合わせ先】

超音波センター：飯島 尋子

TEL：0798-45-6111(内線 6316)

E-mail: hiroko-i@hyo-med.ac.jp